HOSPITALITY

SATISFACTION

PARTNERSHIP

INNOVATION

TASK

LIFE

病院・診療所のみなさまへ

城陽江尻病院だより 2026 年 10 月号

- 下肢静脈瘤の「確かな治療」と「幅広い選択肢」
- バスキュラーアクセスエコーへの取り組み

ほか

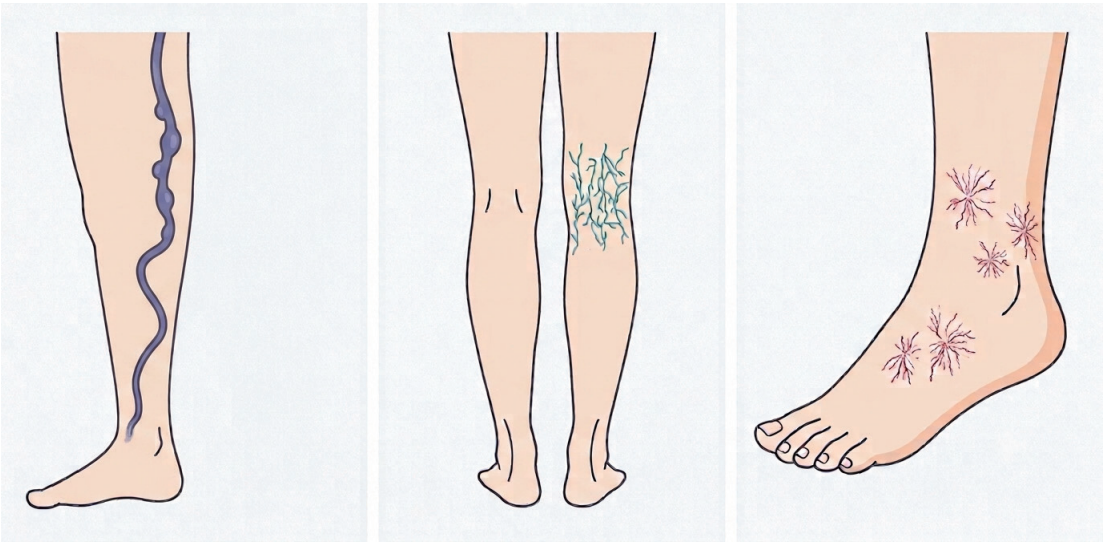
病院・診療所のみなさまへ

いつも当院をご利用くださり、誠にありがとうございます。ようやく朝晩に涼しさが感じられるようになり、厳しい残暑も落ち着きを見せてまいりました。秋の深まりとともに、季節性インフルエンザや新型コロナウイルスなど、秋冬の感染症への備えが本格化する時期を迎えます。病院・診療所のみなさまにおかれましては、今年度のワクチン定期接種への対応や感染対策など、ご多忙のことと推察いたします。当院といたしましては、引き続き皆さまと密に情報交換を行いながら協力し合い、地域医療を支えていければと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。さて、当院の広報紙『城陽江尻病院だより』ですが、2026 年 10 月号ができあがりました。今号の特集は、「下肢静脈瘤の確かな治療と幅広い選択肢」と「バスキュラーアクセスエコーへの取り組み」となっております。ご一読いただければ幸いです。

下肢静脈瘤の「確かな治療」と「幅広い選択肢」

当院の形成外科では、下肢静脈瘤の診療に力を入れています。皆さまのご紹介のおかげで、年間の治療件数が姫路市トップクラスとなっており、深謝いたします。ご期待に沿えるよう引き続き努力してまいります。今回は、当院での下肢静脈瘤診療について、特色も含め、説明させてください。

下肢静脈瘤を疑う愁訴としては、「足の血管が浮き出ている、コブになっている」「足が重い・だるい・疲れる」「足がつる」「足の血管が痛い」「立っていると足がむくむ」などが挙げられます。視診で高度な静脈瘤を認めなくても、超音波検査をしてみると伏在静脈の逆流や拡張を認めることがあります。上記のような愁訴がある場合、遠慮なくご相談ください。



以前は治療といえばストリッピング、高位結紮、硬化療法、圧迫療法が一般的でした。しかし近年、有効かつ低侵襲な血管内レーザー治療や血管内接着材治療が開発され、国内外で広まっています。

まず血管内レーザー治療ですが、レーザーファイバーを伏在静脈の中に入れ、静脈周囲に広く麻酔の注射をしたのち、レーザーで静脈を内側から焼灼して閉鎖します（図 1）。治療成績が高く低侵襲で、ダウンタイムが短く合併症も少ない治療です。深部静脈血栓症の予防で、術後に弾性ストッキングを 2 週間ほど着用していただきます。当院では、最新機種のひとつである ELVeS レーザー 1470（インテグラル社）を導入し、保険適応の診療を行っております。日帰りもしくは 1 泊で行っています。

血管内接着材治療ですが、カテーテルを伏在静脈の中に入れ、接着材を注入し、静脈をしばらく圧迫することで閉鎖します（図 2）。治療成績が高いうえに、静脈周囲への麻酔の注射は不要で、血管内レーザー治療よりもさらにダウンタイムが短いです。術後の弾性ストッキング着用も不要です。デメリットとしては接着材に対するアレルギーや異物反応が挙げられますが、確率は低いです。当院では、VenaSeal クロージャーシステム（メドトロニック社）を導入し、保険適用の診療を行っております。日帰りもしくは 1 泊で行っています。

これらの治療以外にも、体操・マッサージ・生活の指導や圧迫療法、漢方の処方、硬化療法、クモの巣状静脈瘤に対する Vbeam 治療（色素レーザー、シネロン・キャンデラ社）、瘤切除（スタブアバルジョン法）、従来の手術も行うことができ、下肢静脈瘤に対する総合的な診療体制が整っていると自負しております。また、体操・マッサージ・生活の指導については分かりやすい冊子をお渡ししたり、圧迫療法についてはコツや注意点を具体的にお伝えするように心がけたりしております。

今後も下肢静脈瘤に対する総合的な診療体制を維持・向上させつつ、親切で丁寧な対応を心がけてまいりますので、安心してご紹介くだされば幸いです。

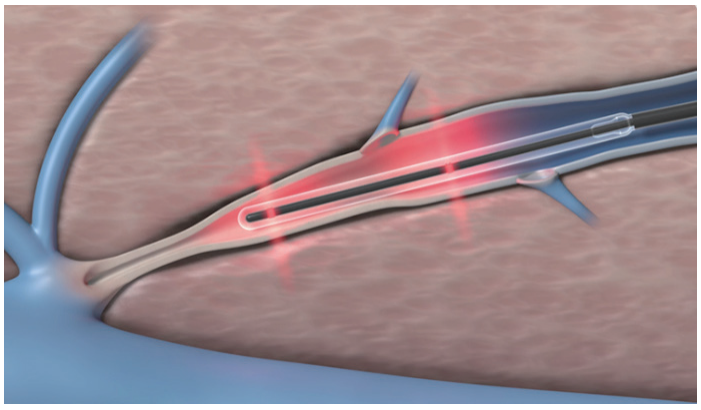


図 1：血管内レーザー治療のイメージ

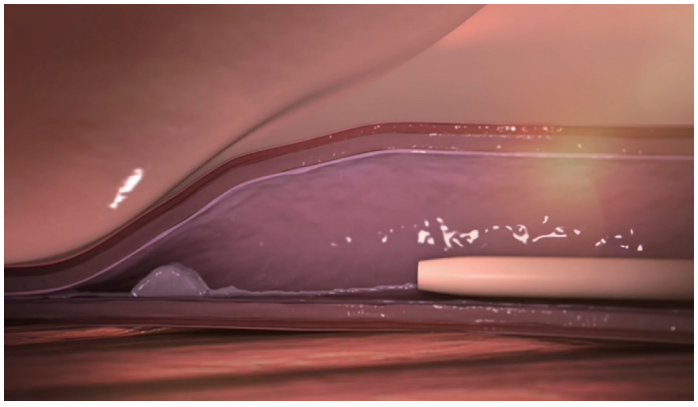


図 2：血管内接着材治療のイメージ

バスキュラーアクセスエコーへの取り組み

背景とこれまでの課題

透析患者さまの“命綱”であるバスキュラーアクセス（以下 VA）の管理や穿刺において、エコーを用いることは極めて重要であり、各専門医学会からも推奨されています。当院でもこれまで導入を進めてまいりましたが、スタッフ間の VA 関連教育や管理基準の統一が十分ではなく、当法人の透析サテライトである光寿会クリニックとの連携体制にも課題がありました。また、近年増加傾向にある経皮的バスキュラーアクセス拡張術の中で、身体への負担が少ないエコーガイド下 PTA（以下 e-PTA）の症例が増加しており、その介助者を育成・増員することも急務となっていました。

チーム発足と 3 つの重点的取り組み

これらの課題を解決するため、2025 年 1 月に光寿会クリニックと連携して「VA 管理チーム」を発足しました。現場での実践力向上と標準化を目指し、以下の 3 本柱で改革を推進しました。

① エコー走査・e- 穿刺の自立評価表と教育プログラムの導入
新入職者や若手スタッフがステップアップ出来るよう体系的な教育プログラムを策定しました。さらに、客観的な「自立評価表」を導入し、自己評価・他者評価を通じて自立基準と目標を明確化しました。（下図）

②「VA 管理表」の作成方法統一と施設間共有
当院と光寿会クリニックの間で VA 管理表の書式や運用を統一しました。また、患者さまの血管状態や穿刺部位の情報をスムーズに共有・把握出来る体制を整えました。

③ 透析課スタッフによる全症例の e-PTA 介助
PTA の介助を透析課スタッフ（臨床工学技士・看護師）が全症例において担当し、経験を重ねることでエコー走査技術と知識の向上を図りました。（写真）

評価内容	自己評価	他者評価
プローブの向きは正しいか	A・B・C	A・B・C
穿刺するための血管評価ができているか	A・B・C	A・B・C
初動穿刺にてプローブマークの中心に刺せているか	A・B・C	A・B・C
初動穿刺にてエコー画像の中心に血管が位置しているか	A・B・C	A・B・C
初動穿刺後エコー画像を見れているか	A・B・C	A・B・C
針とエコーが90°の関係になっているか	A・B・C	A・B・C
初動穿刺後針先が発見できているか	A・B・C	A・B・C
血管に入るまでに針先が発見できているか	A・B・C	A・B・C
針とプローブは交互に動かせているか	A・B・C	A・B・C
常に針先を追えているか	A・B・C	A・B・C
血管の中心を針が進んでいるか	A・B・C	A・B・C
留置確認を短軸・長軸で確認できたか	A・B・C	A・B・C
テスト日	20　/　/	合格 ・ 不合格

評価基準A：一人でできる　評価基準B：見守りが必要　評価基準C：指導や助言が必要
合格基準：他者評価が各評価内容全てでB評価かつ、6項目以上がA評価であること

エコー下穿刺評価表



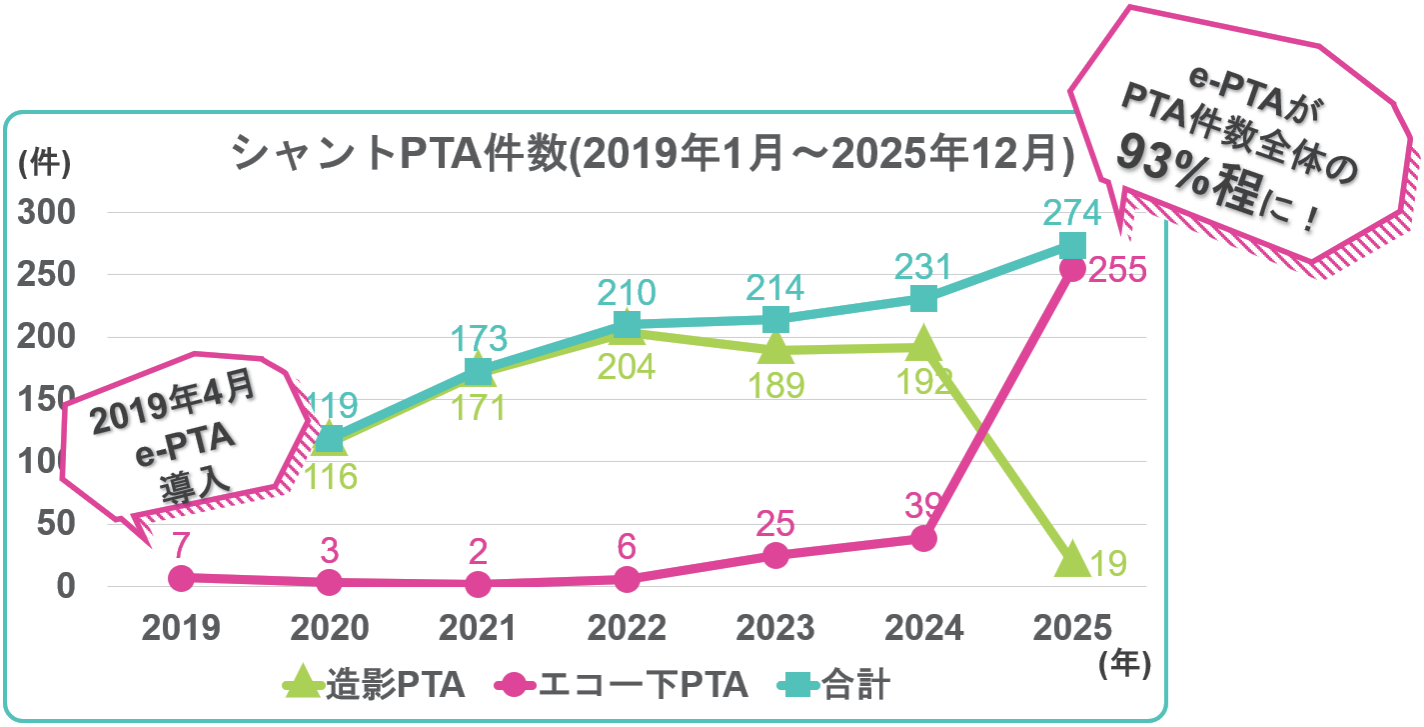
PTA の介助

取り組みの成果：技術向上と患者さまの安心へ

● 自立スタッフの大幅な増加
評価基準の明確化によりスタッフのモチベーションが向上し、e- 穿刺の自立者は当院・光寿会クリニックともに増加しました（当院の臨床工学技士 8 名中 6 名・看護師 3 名中 2 名、光寿会クリニックの臨床工学技士 15 名中 7 名・看護師 14 名中 2 名が自立）。また、e-PTA 介助については臨床工学技士 4 名が自立を果たしました。

● e- 穿刺・e-PTA の実施比率向上
ポータブルエコー（Vscan Air 等）の活用も進み、当院における e- 穿刺は全体穿刺件数の約 20%を占めるまでに定着しました。また、PTA 件数における e-PTA の割合は約 93%に達し、円滑な治療提供が可能となっています。（下図）

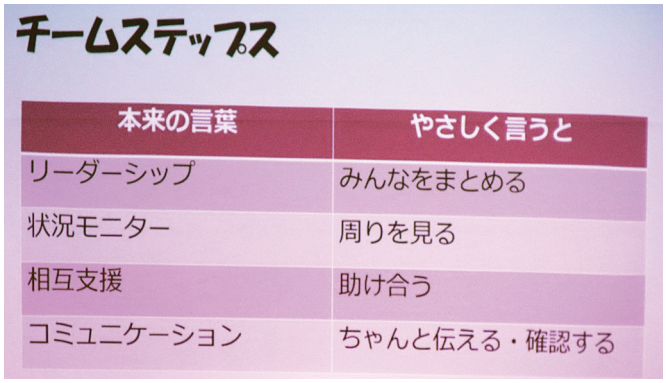
● 再穿刺率の低下と負担軽減
エコー下での確実な穿刺が可能となったことで再穿刺率が低下し、患者さまの痛みや恐怖心、スタッフの穿刺に対する不安・ストレスが大幅に軽減しました。

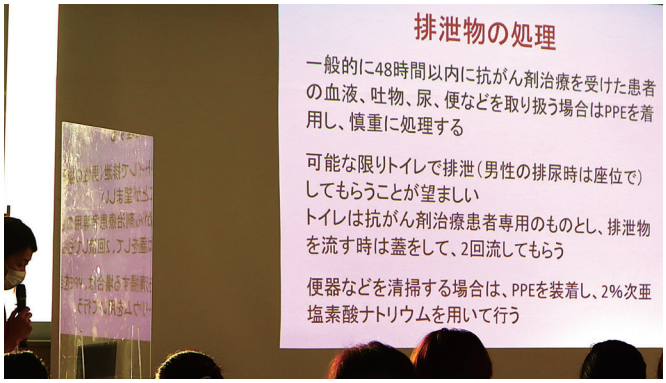


今後の展望

エコーの積極的活用を進める一方で、基本となる「視診・触診・聴診」の大切さを改めて再認識する機会にもなりました。現在は合併症のさらなる早期発見を目指し、シャントトラブルスコアリングの導入・運用も進めております。今後も当院と光寿会クリニックで緊密に連携を取りながら、患者さまにより安全・安心で安定した透析医療をお届け出来るよう、研鑽と体制強化を続けてまいります。

安全対策全体研修





2026 年 8 月 19 日、安全対策全体研修を行いました。今回は、「身体拘束ゼロを目指すためのケアと安全対策」「情報伝達を生かした医療安全」「抗がん剤の職業性曝露予防」がテーマでした。身体拘束については、当院での取り組みが紹介され、実際にどれくらい減少したかを数値で示されました。情報伝達については、チームステップスが良好なコミュニケーションに有効であると紹介されました。抗がん剤の職業性曝露予防は、日常業務に関係する内容で、興味深い講義でした。

秋祭り





2026 年 10 月 10 日秋晴れの中、当院正面玄関前にて、北条自治会の皆さまが勇壮な屋台練りと可愛らしい花笠踊りを披露してくださいました。お祭りの熱気から患者さまもスタッフも大いに元気をもらい、地域との絆を深く実感いたしました。

患者さまのご予約方法

入院・転院のご依頼
外来診療のご依頼
上部・下部消化管内視鏡のご依頼

➡ **079-225-1231**（地域連携課）にお電話ください。
➡ 担当医と調整の上、予約を入れさせていただきます。

CT・MRI・超音波・骨密度・マンモグラフィーのご依頼

➡ **0120-25-1236**（放射線課）にお電話ください。

※ 受付時間は 8:30 ～ 19:00 となっております（日曜、祝日を除く）。
※ そのほかのお問い合わせは **079-225-1231**（地域連携課）にお電話ください。

ご予約後の流れ

患者さまに、以下のものをご持参いただくようお伝えください。

貴院からの診療情報提供書（紹介状）
（CT・MRI をご依頼の場合は所見用紙）
マイナ保険証または資格確認証
当院受診歴のある方は、当院の診察券
（必要に応じて）貴院での血液検査結果、投薬情報

患者さまに、来院当日は 1 階総合受付にお越しいただくようお伝えください。
スタッフがご案内いたします。

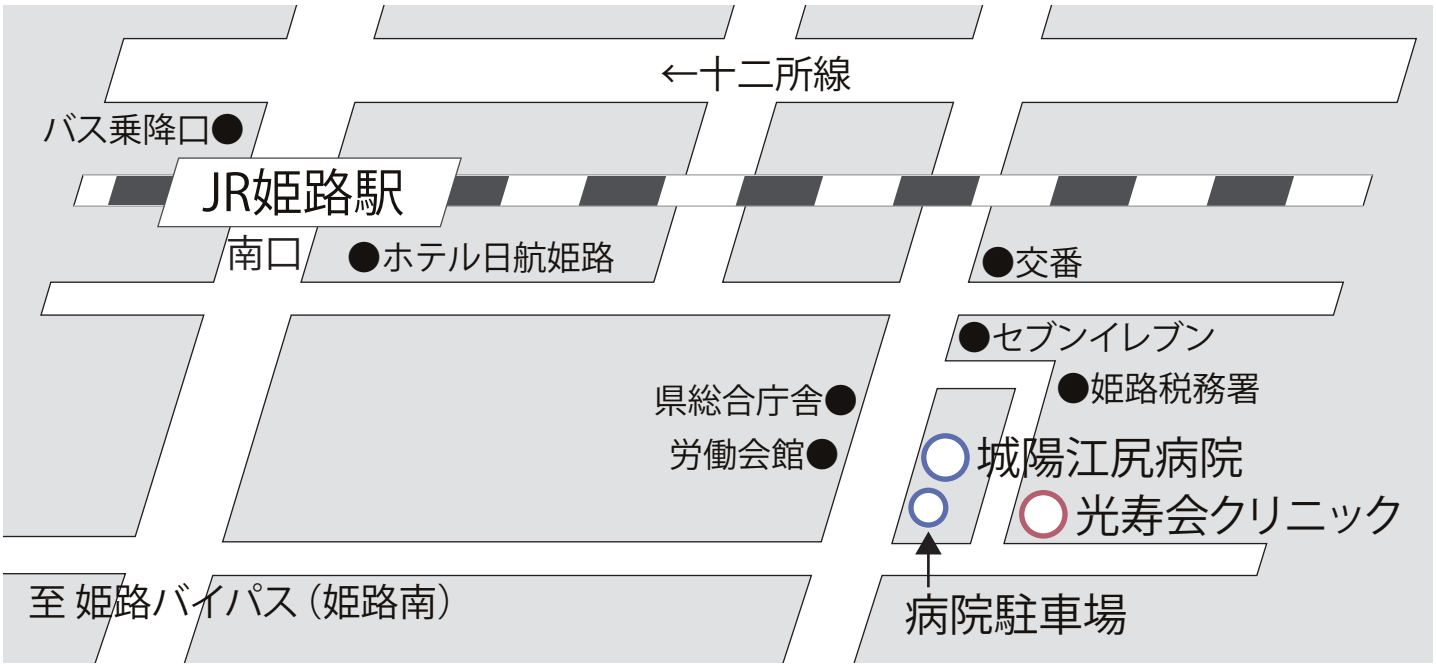
EJIRI HOSPITAL











〒670-0947 兵庫県姫路市北条１丁目279
ホームページ：www.ejirihospital.or.jp
代表 Tel：079-225-1231
Fax：079-222-0154

EJIRI HOSPITAL
城陽江尻病院